

去年は御遠路を御来駕下さいましたのに、之といったお話もできず、失礼いたしました何分遠い昔のこととて日頃忘れようと思っている事でもありますので、御尋ね頂いて改めて、そんな事もあったと追憶するので誠に頼り無いことです。では御質問に対して

終戦半年前に小生は山梨医専へ着任していましたので、終戦時731部隊が引上げて先ず金大医に集結しましたので、石井閣下や石川君を見舞に甲府より出向きましたのですが持ち帰った顎微鏡始め沢山の機械機具が雑然と積んであり、閣下は必要な物があれば、持って行けとのことであったが、終戦直後のこととて気もそぞろで早々に辞退して帰って来たのを思いだします。

2) 終戦の当日は丁度新潟に出張していましたのですが、内藤君は直ちに状況調査に東京へ行くので、新潟の一切は因行等に託して行くが何か処理不明の事があれば君に相談する様言つてあるから後宜しく頼むとのことであった。

内藤君と小生の最も心配したことは現在従事している技術者達で彼等専門職で直ちに他の仕事に就職させることは不可能なことは判っていたから、それを如何にするかを、考慮して置いてくれとのことであった。間もなく帰ってきた内藤君と直ぐにそのことで大阪へ同行した。米軍が来たとは聞いていません、後は陸軍省が終戦処理事務所となり、その係官（前軍医部員が衛生関係を）によって調査後、処理された筈です。私は新潟で広島が原爆でやられた後、痘瘡が発生したら困るからと痘苗製造に当り約三十万人分位急撲製造して発送を終わった時丁度八月十五日になって、早々始末して甲府へ引上げました。